



変わりゆく生活様式。これからの時代が求めるものとは？



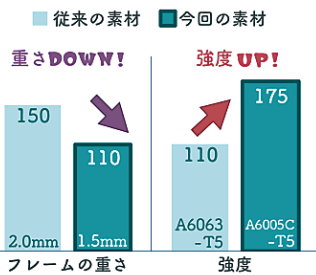
運べる空間+創エネ

## オフグリッド型モビリティスペースの開発を提案

大きな3つの特徴

### 1. 軽量・強靱な構造

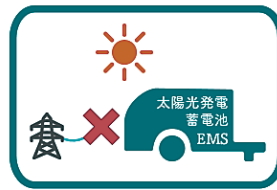
素材を工夫することで軽量化し、さらに断熱性・耐久性も大幅UP



### 2. 独立電源システム

電気を作り(太陽光発電)・蓄えて(蓄電池)・管理する(EMS) 多機能な大容量の独立電源システム

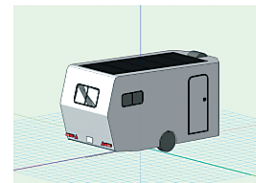
気象庁の週間日射量からその週の3つのエネルギーバランスを予測する独自のEMS



### 3. 高いデザイン性

三次元設計技術にて可能な独自性のある設計

外観・内装・機能など全ての面でユーザーの希望に沿ったデザインへ対応可能



## 第129回 かわさき起業家オーディション

「かわさきビジネス・アイデアシーズ賞」受賞

# 再エネ供給移動空間

## 「オフグリッドモビリティスペース」



日崎工業株式会社

代表取締役

三瓶 修

当社は、昭和42年創業の金属加工メーカーです。駅や空港、商業施設などの案内表示板、イベントで使われる造形物、大型モニメントの製作などを手掛けています。99%がオーダーメイドの1点ものであり、確かな技術でクライアントのニーズに応じてきました。また、自社オリジナル製品も展開しており、アウトドア用アイテム、飲食店向けキッチンカー、そして今回受賞したトレーラーハウス「オフグリッドモビリティスペース」の企画・開発を行っています。

オフグリッドとは「電力を自給自足している状態」、モビリティスペースとは「自由に移動できる空間」のことです。

新型コロナウイルスの流行を機に、新しい生活様式が定着しつつあります。テレワークの普及、アウトドア市場の拡大、自然災害への対策、再生可能エネルギーの推進…私たちを取り巻く社会環境は著しい変化を遂げています。

「オフグリッドモビリティスペース」は、これからの社会に対応できる要素を満たしたトレーラーハウスです。多くの方に使っていただくことで、新たなライフスタイルを楽しみながら、エネルギーの重要性や環境問題についても、改めて考えてもらえるきっかけになるのではないかと想定しています。

## ■受賞したビジネスに至った経緯

当社は金属加工メーカーとして、案内表示板やミニメントなど大型の金属製品の製作をメインに手掛けてきました。この技術力を活かし、大きな板金を使ったオリジナル製品がつかれないかと模索していたところ、小型トレーラーハウスの自社開発にたどり着きました。

トレーラーハウスに着目した背景には、バイクで旅をしたり、自然の中で過ごしたりすることが好きだった私の趣味と、東日本大震災をきっかけに再生可能エネルギーの活用推進や環境問題について深く考えるようになったことが影響しています。

現在、当社はCO<sub>2</sub>排出ゼロを目指し、本社の工場には自家消費型太陽光発電パネルを設置。地産地消エネルギーでのモノづくりを目指しています。こうした会社としての理念もあり、「トレーラーハウスをつくるなら、完全なオフグリッドで自給自足ができるものにしてほしい」という目標を掲げて、開発に取り組みました。

今は、テレワークやワーケーションが定着しつつあり、場所に縛られない働き方ができる時代です。定住せず、車で日本中を移動しながら仕事をしている若い世代の方もいます。そうした新しい働き方にも、電力を使うパソコンやスマホは欠かせません。トレーラーハウスを日常的に使える空間にするためにも、自家発電できる仕組みは必要になると考えました。また、普段は何も考えずに使っている電気ですが、太陽光がどれだけの電気を生むのか、その電気でどれだけ仕事ができるのかを意識することで、エネルギー問題について見つめ直すきっかけにして欲しい、という想いもありました。

## ■サービスの特徴

当社の「オフグリッドモビリティスペース」は、普通自動車でけん引できる小型トレーラーハウスです。当社の得意分野である金属加工技術を活かし、軽量で強靱な独自のフレーム構造を実現。総重量をけん引免許が必要ない650kgまで抑えることに成功しました。ハイブリッド車や電気自動車でもけん引可能です。

また、太陽光発電、蓄電池、EMS（エネルギーマネジメントシステム）を組み合わせた「独立電源システム」を搭載。気象庁が発表する週間日射量データからその週の発電量、蓄電量、電気使用量を予測し、計画的なエネルギーの利用を可能にします。

現在、国内で販売されている小型トレーラーハウスはほとんど輸入もので、自社で製造している企業はほとんどありません。その中でも、独立電源システムを搭載したトレーラーハウスは当社製品だけであり、差別化のポイントとなっています。

さらに、維持費を低く抑えられることも特長です。メンテナンスも簡単で、車検のように高額な費用がかかることはありません。キャンピングカーよりも身軽で使いやすいというメリットがあります。昨今のアウトドアブームで、キャブコンと呼ばれるキャンピングカーも人気ですが、普段使いには向かないため併せて普通車を所有する方も少なくありません。その点、当社の「オフグリッドモビリティスペース」は、普通自動車でもけん引できますし、維持費は年間わずか4万円ほどです。キャブコンの購入を考えているけれど、維持費は抑えたいという方にもニーズはあると考えています。

個人の方が仕事やプライベートで使ったり、アウトドアを楽しんだりもできますし、企業が自社の駐車場に置き、オフィス代わりに使うこともできます。また、

災害時の避難スペースとして、自治体などで導入していただくことも想定しています。さまざまな使い方ができる汎用性の高さも大きな魅力です。

## ■現状の課題

普通免許でけん引できる小型トレーラーハウスですが、やはり「運転が難しいのではないかと不安に思う方もいらっしゃいます。ただ、一度慣れてしまえばスムーズに運転できますので、購入前の最初の不安をどう払拭していくかが、現状の課題です。まずはお客様に実際に運転していただき、体験してもらえようという取り組みが必要になるでしょう。そのために、目的地やルートを決めた試運転コースを設定したり、購入前にレンタルで使ったりできるような準備を進めているところです。

また、当社は独立電源システムの搭載にこだわりをもって企画・開発を進めてきましたが、「電源は必要ない」、「スペースだけあればいい」というお客様も一定数いらっしゃいます。欧米諸国と比べると、日本の再生エネルギーに対する意識はまだ低く、温度差があることは否めません。しかし、若い世代になるほど環境問題への関心が高まっていることも感じていますので、2～3年後には状況が大きく変わっていくだろうと予測しています。そこに向けて、環境意識の啓蒙を先駆けて取り組んでおくことは必要だと考えています。

## ■今後の展開

初年度は年間5台、2年目は年間15台、5年後には年間50台の販売を目指し、当社の新しい事業の柱として成長させていきます。また、焚き火台やランタンシェードなどのアウトドア用品も自社展開していることで、トレーラーハウス内で使えるアイテムや、インテリアなどの開発も同時に進められたらと考えています。

そして長期的な目標としては、当社のトレーラーハウスを乗り入れて宿泊できる、RVパーク（宿泊など長時間の利用が可能な車輻を使った施設）のようなスペースをつくりたいという想いがあります。水道やトイレ、Wi-Fiなどを完備し、仕事をしながら過ごしたり、長期のアウトドア生活もできたりするような場所です。これを全国各地に展開することで、また新たな市場をつくりあげることができるのではないかと期待しています。

## ■エントリーを検討中の方へ一言

ビジネスのアイデアを持っている人なら、絶対に応募すべきだと思います。受賞できれば、会社をPRする最高の機会になりますし、受賞できなかったとしても、トライすることでよりよいものを生み出したいという意欲が湧いてくるでしょう。私自身も、今回エントリーを決めたことがモチベーションアップに繋がりました。自身のスキルやレベルアップにもなりますし、川崎市以外の企業も応募できますので、ぜひ挑戦してみてください。

会社名：日崎工業株式会社

住所：〒210-0858

神奈川県川崎市川崎区大川町7-2

電話番号：☎044-366-7711

メールアドレス：hizaki@hizaki.jp

ホームページ：https://www.hizaki.jp/